

氏名	三 好 正 規
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 868 号
学位授与の日付	昭和52年 9 月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)
学位論文題目	慢性甲状腺炎(橋本病)及び膠原病の間脳・下垂体・甲状腺系機能に関する研究 第 1 編:慢性甲状腺炎の下垂体・甲状腺機能に関する研究 第 2 編:膠原病及び辺縁疾患における間脳・下垂体・甲状腺機能に関する研究
論文審査委員	教授 木村 郁郎 教授 長島 秀夫 教授 小川 勝士

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

慢性甲状腺炎及び膠原病の間脳・下垂体・甲状腺系機能について研究した。

第 1 編:慢性甲状腺炎はその組織学的多様性から甲状腺機能も様々である。TRH試験, 血中TSH測定, 血中甲状腺ホルモン(T_3 , T_4)測定を行ない, 間脳・下垂体・甲状腺系機能を詳細に検討した。その結果, euthyroid 慢性甲状腺炎では血中 T_4 が正常値でありながら, 血中 T_3 が高値例が 25%認められ, T_3 が euthyroid に維持するのに重要な役割を果していると考えられた。又TRH試験では euthyroid 慢性甲状腺炎の basal TSH レベル高値群は全例が, basal TSH レベル正常値群でも 14 例中 11 例(78.6%)が過剰・遅延反応を示し, TRH試験が甲状腺の minimal change を検討する上に basal TSH レベルだけの測定よりはるかに有力な方法であることが認められた。又慢性甲状腺炎ではTRH試験での血中 T_3 の% increase が少なく, 甲状腺予備能の低下が示唆された。

第 2 編:膠原病及び辺縁疾患において抗サイログロブリン抗体が高率に検出されることはよく知られている。著者が検索した範囲ではSLE 45.9%, Sjögren 症候群 61.5%, RA 28.5%, PSS 30.0%, Behçet 病 14.3% の抗サイログロブリン抗体が陽性であった。又SLE 6例, PSS 1例, RA 1例, Sjögren 症候群 2例 計10例において第 1 編で報告した euthyroid 慢性甲状腺炎と同様に TRH 試験が過剰・遅延反応を示した。これらは甲状腺腫も認められず 50%が抗サイログロブリン抗体が, 又 60%が抗マイクロゾーム抗体が陽性であり, asymptomatic autoimmune thyroiditis (AAT)との合併が示唆された。又, 膠原病剖検例のうち S

LE 3例に甲状腺内へのリンパ球系細胞の浸潤が認められ、3例中2例は抗サイログロブリン抗体が陽性であり、甲状腺腫もなく AAT の存在が組織学的に証明された。

論文審査の結果の要旨

本研究は慢性甲状腺炎（橋本病）及び膠原病の間脳・下垂体・甲状腺系機能について検索したものであるが、従来十分に確立されていなかった thyrotropin releasing hormone (TRH) による機能検索を中心として、間脳・下垂体・甲状腺系について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。